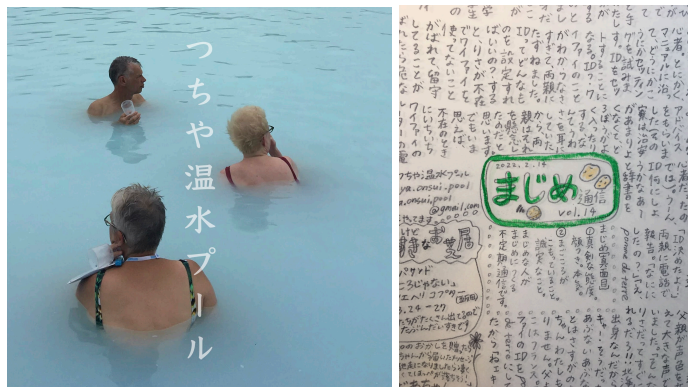


satokai-farm おれぜんつ☆=

ジ〜ンな店 (zine) (shop)

プロフィール~~~~~



つちや温水プール

ボンジュール！つちや温水プールのりさです。

熱くないけどぬるくあったかく

特別じゃないけどちいさくほっと

そんな時間をみんなといっしょに過ごしたくて

あそぶように飛びまわっています。

あなたのところが自由になったりはずんだりきらめいたり

そんな時間をここで過ごしていただけますように。

<https://tsuchiya-onsui-pool.studio.site/>

ジ~~~~~ン

・「まじめ通信」vol.1~15

インタビュー~~~~~

—「まじめ通信」はどんな経緯で生まれた？

書き始めたのは一昨年の秋ごろで、現在15号目。作り始めたきっかけ、というか「まじめ通信」になったきっかけは、バイト先の人から久々に「まじめだね」と言われ、その日に家に帰って「まじめ」という言葉を初めて検索してみたこと。私、昔から「まじめだね」と言われることが多かった

んだけど、当時はあんまり良い意味として受け取れてなかった（小学生の時、クラスで1番まじめだと思っていた人に「つちやさんって本当にまじめだね」と言われて、ガビーンってなったのを覚えてる）。でも改めて意味を調べてみたら「真剣な態度、本気、真心がこもっている」とか結構良い言葉が色々書いてあって、そこから「まじめ」に対してポジティブになることができた。「まじめ通信」が生まれた最初のきっかけはそこかな。

—なんで新聞にしたの？作ったことでどんな影響があった？

作り始めた当時は、とにかく自分の思っていることを何かの形で表現していこうと思っていた時期で、ZINEという存在も知らなかった。新聞を作ってみたのは、元々詩を書いていたから文章を書いてみようと思ってとりあえず、かな。手書きなのは、パソコンを全然使えなかったから。作る方法はそれしかないと思ってた。でもそうしたら「今時手書きなんだね！」と新鮮に受け取ってもらえて、逆にそれがよかったみたい。1号目をバイト先のカフェに置かせてもらったらお客さんが面白がってくれて、「じゃあ次号も作ろう！」と翌週くらいに2号を出し、それから4号くらいまでは週1で発行していた。そこからスローペースになったけどね（笑）今は1ヶ月に1回を目標に作ってる。でも、決めると苦しくなっちゃうからゆるやかにね。で、作っているうちに少しずつ応援してくれる人や毎号置いてくれたり、トイレに貼ってくれたりするお店が出てきた。あとお手伝いしている劇団の公演がある時にパンフレットの折り込みで入れさせてもらったりもしてる。それから、「たまたま見つけました」「毎号読んでます」という連絡が少しずつ来るようになって、新聞をきっかけに今運営している「つちや温水プール」のスペースにきてくれる人も現れるようになったんだ。

—どんな人に読んでもらいたい？

「まじめ通信」では、日常の中でハッとしたことをみんなに「聞いてー！」という気持ちで書いてる。だから、おしゃべりしているような気持ちで読んでくれたら嬉しいな。身近な存在、お友達みたいな感覚でゆるっと。肩に力が入っていたり、焦っちゃったりしてる人にぜひ読んでほしい。「私の手からあなたの手へ」ではないけど、確かにこの新聞は存在していて人が手で作っている、世界にひとつしかないもの。そういうことを大切にしたいなと思ってる。「まじめ通信」は自分が思っていた以上にいろんな人から反応があって、自分だけだったら出会えなかったような人と繋がった実感がある。それは形があるからこそだなと思う。新聞だからこそ、予期せぬところで偶然の出会いが起こる。「何号まで続ける」という目標はないけど、ほそぼそと長く続けていけたら良いな。

